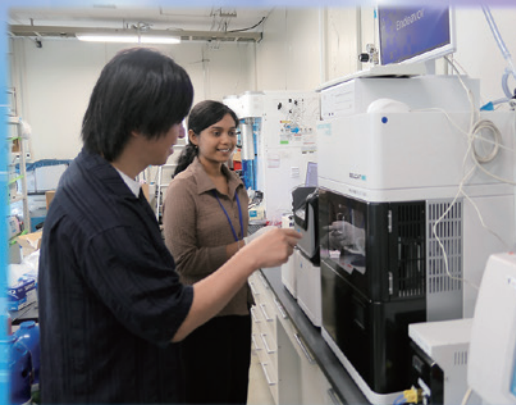


やまいぬ



INDEX

- 2 「スズキ株式会社 常務役員 角野 卓 ごあいさつ」
- 3 - 5 「新たな100年に向かって」スズキの2030年に向けての取り組み(その8)
- 6 - 7 〈TOPICS〉「Out of KidZania in Japan Mobility Show 2025」と「第23回 学生フォーミュラ日本大会2025」の出展を紹介します
- 8 - 9 業務紹介「スズキ未来R&Dプロジェクト」有志10名の挑戦 ワクワクと熱量極大化で未来を創る!ー
- 10-11 技術レポート 新型「DR-Z4S」、新型「DR-Z4SM」のエンジン開発

スズキ財団ニュース

- 12-13 加藤 百合子 先生 インタビュー「魅力ある農業を未来へ! 世界へ!」
- 14-15 研究室訪問「根岸 雄一 東北大学 多元物質科学研究所 教授 博士(理学)」
- 16 研究室便り「榎藤 詩織 産業技術総合研究所 主任研究員 博士(工学)」
- 17 研究室便り「木口 賢紀 熊本大学 先進マグネシウム国際研究センター 教授 博士(工学)」
- 18 海外研修報告「8th International Conference on Cellular Materials CellMAT2024に参加して」
高松 聖美 千葉工業大学 工学部 先端材料工学科 助教 博士(工学)
- 19 「事業報告」科学技術研究助成の1980年度から2024年度までの45年間の実績



<https://www.s-yaramaika.jp/>



スズキ株式会社 常務役員
すみの たく
角野 卓 ごあいさつ
技術戦略本部 本部長

2026年の幕開けにあたり、本年を飛躍の一年とすべく、熱い想いを胸に新たなスタートを切ります。昨年4月に39年ぶりに制服を刷新しました。これは社是に掲げる「清新な会社」の理念を形にしたものであり、まさに新鮮な気持ちでのスタートになります。

スズキは創業以来、「お客様の立場になって価値ある製品を作ろう」という精神を受け継ぎ、お客様に寄り添った“ちょうどいい”製品づくりを続けてまいりました。

こうしたモノづくりの現場で知恵を絞る技術者の想いや工夫を営業部門までしっかりと伝え、お客様にお届けする取り組みを始めました。これにより、技術者のモチベーションが高まり、お客様視点で価値を議論する風土が着実に根づきつつあります。

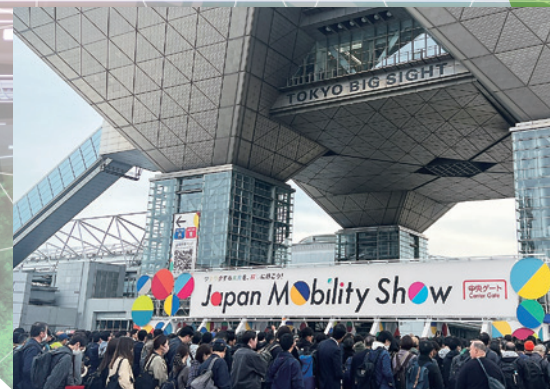
私が担当する技術戦略本部は、2024年1月に発足しました。技術開発の基盤である「ヒト・モノ・カネ・情報」を強化し、開発効率を最大限に高める体制づくりを推進しています。AIの開発現場への導入や業務プロセスの整理など、さまざまな施策を進める中で、最終的に製品の価値を高めるのは、やはり人の熱い想い、すなわち“熱量”であると強く感じています。

この熱量を極大化するため、「スズキ未来R&Dプロジェクト」を立ち上げました。人が価値を創造し、バーチャルやAIを駆使して効率化を図りつつも、最後は現場・現物・現実です。感覚を研ぎ澄まして価値を高めるスズキらしい風土を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、スズキ行動理念の「3現主義（現場・現物・現実）」に、原理・原則の「2原」が加わりました。先人や仲間が「現場・現物・現実」により培った勘やコツを、解像度を高めることで自然の摂理である「原理」に一步でも近づけ、数値化あるいは方程式として導き出し、技術という「原則」にして次世代へ伝承していくことに挑戦してまいります。

この挑戦には産学連携が不可欠です。研究機関の皆様におかれましては、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新たな100年に向かって



スズキの2030年に向けての取り組み（その8）

お客様に寄り添う新しいモビリティ社会へ

スズキは、お客様が欲しがっているものに答える、という創業から変わらぬ想いのもと、価値ある製品づくりに取り組んできました。昨年開催された「Japan Mobility Show 2025」では、その想いを込めてお客様ひとりひとりに寄り添うモビリティのご提案と、ワクワクをお届けすることを目指し、さまざまな製品と技術を展示しました。

スズキのテーマ By Your Side

昨年10月末から11月にかけて東京ビッグサイトで開催された「Japan Mobility Show 2025」（主催：一般社団法人 日本自動車工業会）のスズキの出展テーマは「By Your Side」。「あなたのちょうどいいパートナーであり続けたい」という想いのもと、お客様の毎日に寄り添うさまざまなモビリティを展示しました。カーボンニュートラル社会の実現に向け、マルチパスウェイの選択肢として、バッテリーEV（BEV）コンセプトモデルをはじめ、環境技術や電動小型モビリティなど、総合モビリティメーカーならではの幅広いご提案を紹介します。



スズキの展示ブース

「あなたに、ワクワクの、アンサーを。」



BEVコンセプトモデル「e-VanVan」(左)と「Vision e-Sky」(右)を紹介する鈴木俊宏社長



スズキ プレス
ブリーフィング
配信動画

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。本動画は予告なく変更または削除されることがあります。



BEV商用軽バン「e EVERY CONCEPT」

お客様の生活に寄り添う“ちょうど良い”軽乗用BEVとして「Vision e-Sky」を世界初公開しました。「生活の足」として気軽に乗っていただけるEV軽ワゴンとして、航続距離270km以上を想定し、スズキらしいデザインにしました。2026年度内の量産化を目指すコンセプトモデルです。

二輪BEV「e-VanVan」は、1970年代から人気があるレジャーバイク「VanVan」をモチーフに、遊びゴコロのあるEVファンバイクとしました。乗る楽しさと操るワクワクを感じたいというお客様の願いを叶えるコンセプトモデルです。

会期冒頭のプレスブリーフィングで鈴木俊宏社長は、「お客様の生活に寄り添った適所適材のモビリティこそがCO₂削減の近道になる、スズキグループ全員が熱い想いをもち、お客様にとっての『ワクワクの、アンサー。』を探し続けます」と挨拶しました。



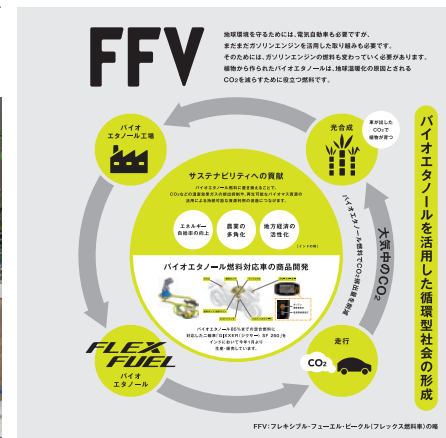
スズキの技術戦略の紹介と技術者の熱量を極大化するために立ち上げた「スズキ未来R&Dプロジェクト」を紹介した展示パネル

1. FFV (Flexible Fuel Vehicle (フレックス燃料車)) の開発

サトウキビやトウモロコシなどの植物から作られたバイオエタノールは、CO₂削減のための燃料としてカーボンニュートラル実現に貢献します。スズキは既存のエンジンとその技術を活かしながら、バイオエタノール混合燃料に対応するフレックス燃料車の開発に取り組んでいます。



①「フロンクス FFV コンセプト」
②「GIXXER SF 250 FFV」(25年1月インドで発売)
③「DF60A FFV コンセプト」



バイオエタノールを活用したFFV紹介パネル

2. インドでのCBG (Compressed Biomethane Gas (圧縮バイオガス)) 事業

スズキはインドの酪農組合と共同でバイオガスパラントを建設し、牛糞を活用したバイオガス事業を進めています。1日あたり10頭分の牛糞で車両1台分の燃料^{※1}をまかなうことができ、インドで広く普及しているCNG (圧縮天然ガス) 車に活用します。スズキは現地にあるものを現地に合った方法で、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいます。

※1 ピクトリスCNGのカタログ燃費27.02km/kgで、1日60km走行する場合



「ピクトリス」CNG / CBG仕様車 (試験車両)



牛糞を活用したCBG事業の紹介パネル



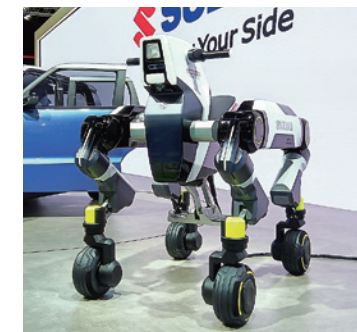
左: 試運転中のバイオガスパラントのミニチュア模型
右: 「ACCESS」CNG / CBG仕様車 (試験車両)

暮らしをもっと豊かに、さまざまなシーンに寄り添う電動小型モビリティ

スズキブースでは、総合モビリティメーカーとして培った技術を活かし、お客様の困りごとの解決に寄り添うさまざまな電動小型モビリティをご紹介します。

身近な日常生活をより便利で快適にする次世代四脚モビリティ「MOQBA (モクバ) 2」や、お客様のもっと気軽に移動を楽しみたいという願いを叶える電動パーソナルユースモビリティ「SUZU-RIDE 2」、カーボンニュートラル時代でも身近な移動やお出かけ先での移動を楽しみたいというお客様の思いを叶える電動バイク「e-PO」、長年の電動車いす事業の知見と現場の声を活かした段差や凹凸のある路面でも走れる電動モビリティベースユニット「MITRA (ミトラ) コンセプト」などを展示しました。

また、スタートアップ企業 Glydways, Inc. と協業したオンデマンドで自動走行させる新しい交通システムの紹介として、ブース来場者が車内に乗ることができる小型電動車両を展示しました。



次世代四脚モビリティ「MOQBA (モクバ) 2」



電動パーソナルユースモビリティ「SUZU-RIDE 2」



電動バイク「e-PO」



電動モビリティベースユニット「MITRA (ミトラ) コンセプト」



Glydways, Inc. と協業した交通システムの紹介展示

お客様にワクワクを体感いただけるブース展示

市販車ではジムニーシリーズの5ドアモデル「ジムニー ノマド」や、二輪の市販予定車として国内初展示の「GSX-8T」「GSX-8TT」、また海外仕様モデル「GSX-R1000R」などを展示しました。それぞれの車両に乗り込んだりまたがったりして、ワクワクを体感いただいたお客様のたくさんの笑顔がスズキブースに広がりました。



ジムニーノマド試乗車



GSX-8TT 試乗車



GSX-R1000RとCNチャレンジ ミニの親子フォトスポット

まとめ

開催期間中は終日たくさんのお客様にスズキブースにご来場いただき、ワクワク・元気・個性などをつめ込んだ展示や演出を体感いただきました。スズキは「By Your Side」をスローガンに、カーボンニュートラル実現に向けたさらなる技術開発に挑戦していきます。そして、生活に密着したワクワクするインフラモビリティで、世界中のお客様ひとりひとりに寄り添い続けることを目指します。

「Out of KidZania in Japan Mobility Show 2025」に出展

「Japan Mobility Show 2025」のプログラムとして、子どもの職業・社会体験施設「キッズニア」とコラボレーションした「Out of KidZania in Japan Mobility Show 2025」（主催：一般社団法人 日本自動車工業会）が開催されました。2023年開催から2度目となるプログラムで、会場に設置された「こどもが主役の街」に、各社が出展するモビリティにかかわる職業体験ブースが並びました。スズキは「次世代モビリティのデザイナーの仕事」として、MOQBA（モクバ）2を活用して世の中の困りごとを解決する、新しいモビリティのデザイン体験を実施しました。



元気いっぱいに体験がスタート



スズキの職業体験ブース



スタッフと一緒にMOQBA2の使い方を考える

次世代四脚モビリティMOQBA2は、平地は車輪で走行し、段差や階段は四脚で歩行することで生活支援を目指すコンセプトモデルです。共通の四脚プラットフォームをベースにバイク仕様、荷物配送仕様、椅子仕様などのバリエーションを展開し、さまざまなニーズに応えることを目的としています。

参加した小学生には MOQBA2がどのようなモビリティかを伝えながら、困っている人や場面を想像してもらい、スズキスタッフのサポートのもと新しい使い方やデザインを考えてもらいました。けがをした人や妊婦さんが楽に移動できるようにしたり、お年寄りが重い荷物を運ぶのを助けたりなど、それぞれのキッズデザイナーが、困っている人に寄り添った素晴らしいアイデアを発表してくれました。また今回のプログラムを皮切りに、地方でもご家族で楽しめる親子職業体験を実施しました。

未来を担う子どもたちがモビリティへの興味関心を育めるよう、スズキはこれからもワクワクする体験の機会を提供していきます。



多彩なバリエーションを展開するMOQBA2



アイデアをシェアするキッズデザイナー



荷物配送仕様



椅子仕様



バイク仕様

「第23回 学生フォーミュラ日本大会2025」に出展

昨年9月、愛知県常滑市のAichi Sky Expoで開催された「第23回 学生フォーミュラ日本大会 2025」（主催：公益社団法人自動車技術会）にスズキは企業PRブースを出展しました。ブースでは、前年から支援校に供給している新型2気筒800ccエンジンのカットモデルと搭載車両GSX-8Rを展示し、開発担当者がエンジンのしくみやパワーユニットの魅力を解説しました。またフレックス燃料車のGIXXER SF 250 FFVや、エネルギーを極少化する電動車開発としてBEV軽トラックやe-Axleなど、スズキが展開するマルチパスウェイの技術を紹介しました。



スズキの企業PRブース



レバーを回すとクランクの動きが見えるカットモデルで
新型2気筒800ccエンジンのしくみを分かりやすく解説



GSX-8Rにまたがって風の流れを
イメージしてもらう様子



バイオエタノール燃料対応の
GIXXER SF 250 FFVの開発を紹介



BEV軽トラック搭載の電動駆動ユニット
e-Axleについて説明

会場屋内のピットでは、時間ぎりぎりまで自作のフォーミュラカーをチューニングするチームを、スズキの学生フォーミュラ経験者が激励して回りました。ICVクラスとEVクラスが完全にクラス分けされた今大会では計86の登録チームが静的審査とコース走行に向けて全力を尽くすなか、4気筒600ccエンジンの岐阜大学や新型2気筒800ccエンジンで初チャレンジした茨城大学が上位にランクインしました。スズキはこれからもものづくりの機会提供を通して、次世代の技術者育成に貢献していきます。



新型2気筒800ccエンジンで挑む茨城大学



前年同様に安定した走りを見せた岐阜大学

「スズキ未来 R&D プロジェクト」 有志 10名の挑戦 ―ワクワクと熱量極大化で未来を創る!―



お客様に寄り添い、価値ある製品をお届けするために――。
従業員一人ひとりが“ワクワク”し、“楽しく”、そして“熱量高く”
働ける組織風土づくりを目指し、「スズキ未来 R&D プロジェクト」を
立ち上げました。今回は、技術者として日々活躍しながら、組織風土
をより良くする活動に取り組む有志 10名のメンバーをご紹介します。



リーダー・サブリーダー
のむら たくや さとう りり うめざわ しん
野村 拓也／佐藤 恵里／梅澤 心

R&Dの職場を、互いに尊重し合い、ワクワクしながら挑戦できる環境へ。若手の活躍や横のつながりを強化し、熱意あふれるチームづくりに全力で取り組みます。皆が輝ける職場づくりを通じ、これから、スズキの技術革新に貢献していきます!



スズキ未来 R&D プロジェクトの取り組み

スズキの技術が目指す「エネルギー極小化」の実現には、従業員一人ひとりの熱量を高めることが不可欠です。挑戦し続ける風土づくりや、部門を超えた交流、若手からベテランまで意見を発信しやすい環境づくりなど、さまざまな施策に取り組んでいます。今後も、全員が“熱量高く”挑戦できる職場を目指して活動を続けていきます。

コアメンバー「部門リンクステーション」担当
なかた やすゆき かむもと しゆん
中田 泰行／川本 潤

部門リンクステーションは、社内の仲間や情報をつなぎ、多様な部門を知ることで新たな挑戦や成長の機会を生み出すしくみです。将来のキャリアを描くヒントが見つかり、可能性がどんどん広がる――そんなワクワクをこれからも届けていきます!



コアメンバー「話しかけてOKフラグ」担当 すがわら まいこ
菅原 舞子

話しかけやすい職場を目指し、常にウェルカムであることを周囲に宣言! 会話のきっかけを生むアイテムとして、「話しかけてOKフラグ」を配布しています。フラグはミリ単位で設計し、技術者ならではの“こだわり”をたくさん詰め込みました!



SUZUKI 未来 R&D PROJECT

コアメンバー「わかってワクワク」担当
おかむら しやう みつひ
岡村 翔／三井 嘉弘

“やらまいか”精神を育む土壌づくりとして、チームでモノづくりを体験する企画を開催。いろいろな考え方に会い、モノづくりの楽しさを再認識、他部門の仲間が増えるなど、ワクワクが広がっています。これからも挑戦と交流の場を生み出します!



若手ものづくり交流会 (2025/8/29開催)



コアメンバー「皆でクルマに乗ろう」担当 むらき ゆたか
村木 豊

業務でクルマに乗る機会が少ないという声に応え、第一弾としてモビリティ運転講習会を企画し自ら参加。ハンドルを握り、改めて「クルマって楽しい!」と実感。このワクワクを広げるため、今後も社員が楽しめる体験イベントを企画していきます!



モビリティ運転講習会 in 富士スピードウェイ (2025/10/8開催)



コアメンバー「週一オフィスアワー」担当 ひがし なおき
東 直樹

部下―上司間のコミュニケーション活性化のためにオフィスアワーを推進中です。四輪技術部門の本部長・部長、参加者ともに「普段聞けないプライベートや面白い話ができ」「人となりを知り親近感が増した」などの声が寄せられ、交流の効果を実感!



ほんのちょっと
わかり合おう。



「週一オフィスアワー」は、社内の仲間と、人となりを知り親近感が増す機会です。毎週、誰でも参加できる「週一オフィスアワー」を開催しています。

新型「DR-Z4S」、新型「DR-Z4 SM」のエンジン開発

(技術トピックス1) 環境対応と走行性能を両立した燃焼技術

(技術トピックス2) 出力特性とメカニカルロス低減

(技術トピックス3) 誰もが楽しめる走りを追求した電子制御

背景・狙い

新開発の「DR-Z4S」「DR-Z4SM」は、従来の「DR-Z400S」「DR-Z400SM」に対して走行性能を向上しながら、最新の環境法規にも対応したエンジンを搭載しました。また、多様な走行条件やライダーの技術レベルに対応可能な電子制御技術と組み合わせることで、優れた走行性能と扱いやすさを両立しました。本レポートでは、性能向上と環境対応を両立したエンジン技術を紹介します。



環境対応と走行性能を両立した燃焼技術

排ガス基準対応と優れた動力性能を両立するための燃焼改善技術として、一つのシリンダに対して2本のスパークプラグを設けるデュアルスパークの採用(図1、図2赤色の印)と、燃焼室各部の凹凸を減らすスムーズングを行い、燃焼室全体にスムーズに燃焼が伝わる設計としました(図2青色の印)。これにより、空気量が少なく燃焼が不安定になりやすいアイドル付近やスロットルが開かない低速度域においても安定した燃焼を実現しました。

排ガス浄化装置は、アップレイアウトとした排気管内およびマフラーボディそれぞれに一つずつ大型の触媒を備え(図3オレンジ色の印)、排ガス浄化の基準をクリアしながら、オフロード機種に欠かせない最低地上高を確保しました。

出力特性とメカニカルロス低減

出力特性は、実用域で要求される低回転域のトルクとスポーツ走行などを見据えた高回転域の伸びの2点を重視しました(図4)。その際に、触媒追加によって低下した出力を補うため、いくつかの対策を行いました。

エアクリナー吸い口拡大により低回転のトルクを向上し、スロットルボア拡大で高回転の出力も改善しました。その他にも上述した低負荷時の燃焼改善技術と緻密なエンジン制御により、リニアで扱いやすい出力フィーリングを生み出しています。

また、メカニカルロス低減にも取り組み、クランクケース改良とピストンプロフィール変更により、全域でメカニカルロスを低減。最高出力回転数の8000rpmでは1.25kWの改善効果を得ました。

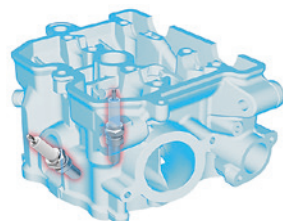


図1 デュアルスパーク

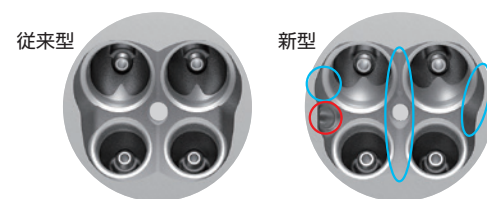


図2 燃焼室形状

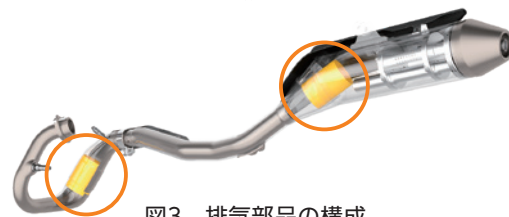


図3 排気部品の構成

Performance comparison between DR-Z400S/SM and DR-Z4S/SM

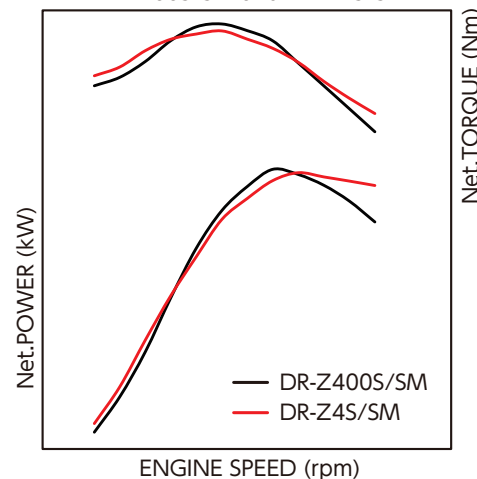


図4 エンジン出力特性

誰もが楽しめる走りを追求した電子制御

ライディング技量や路面コンディションによらず、さまざまな用途で快適に、誰もが楽しんで走ることのできるモード設定としました。

出力特性を変えられるスズキドライブモードセクター(SDMS)は3種類の設定があり、さまざまな路面やシチュエーションに対応するため、各モード差を大きく設けてメリハリのある特性にしています(図5)。

スズキトラクションコントロールシステム(STCS)は、後輪が空転するとエンジン出力を抑えてスピンを防ぐ電子制御です。特にアドベンチャーモデルのV-Strom1050DEから搭載している未舗装路向けの「Gモード」は、砂利道など滑りやすい路面で発生してしまう空転を効果的に抑えます。今回、DR-Z4S/DR-Z4SM用に開発した新Gモードは、上記に加え坂道など負荷が高くアクセルを大きく開ける状況でも、必要以上に出力を下げずに空転を最適に制御します(図6)。これにより、起伏の多い未舗装路でも安定したトラクションと自然な走行感覚を両立し、ライダーが意図した加速が可能となり、まるでタイヤのグリップが向上したかのような新感覚のフィーリングを実現しています。

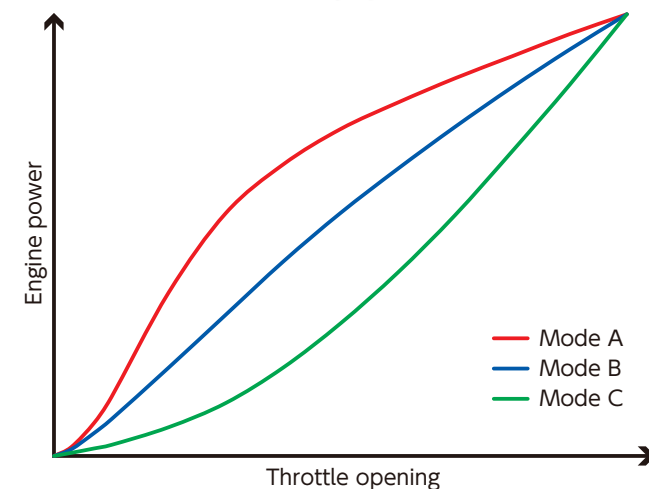


図5 パワーデリバリーイメージ図

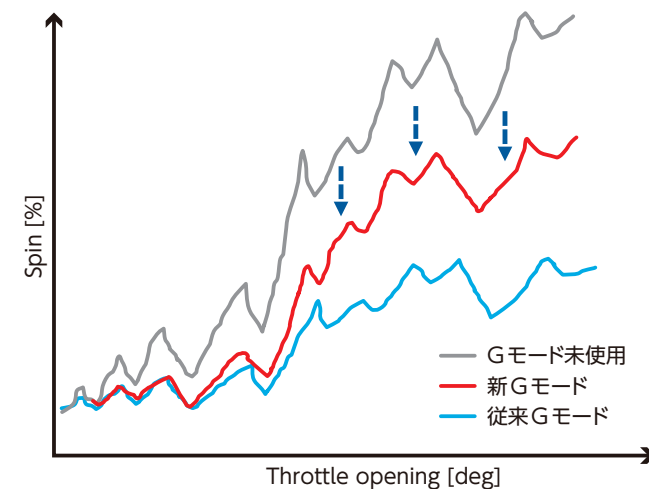


図6 スロットル開度とスピン率のイメージ図

技術課題

新型「DR-Z4S」「DR-Z4SM」は、「走る」「曲がる」「止まる」の基本性能を最大限に高め、デザイン性やユーティリティ性も兼ね備えた、初心者から上級者まで楽しめるモデルに仕上がりました。開発においては、実走評価を重ねながらドライバビリティの作り込みを進めてきましたが、今後はデータ分析のさらなる進化が必要です。そのためにもドライバビリティの数値化に取り組み、スピードと精度を両立した開発の効率化を目指していきます。

著者紹介



杉本 健太
二輪システム制御設計部
係長
(2007年入社)



金子 誠
二輪システム制御設計部
主任
(2008年入社)



山本 浩史
二輪システム制御設計部
一般
(2009年入社)



中根 幸基
二輪システム制御設計部
一般
(2015年入社)



上中 佑馬
二輪システム制御設計部
一般
(2015年入社)



8th International Conference on Cellular Materials CellMAT2024に参加して

たかまつ さとみ

高松 聖美 千葉工業大学 工学部 先端材料工学科 助教 博士(工学)

マクデブルク


2024年11月27日から29日にかけてドイツ・マクデブルクにおいて、多孔質材料分野で権威ある国際学会CellMAT2024が開催されました。11月末のドイツ国内はすでにクリスマスの雰囲気に入れ、広場では盛大なクリスマスマーケットが開かれていました。私は12月25日生まれということもあり、クリスマスマーケットに憧れがありましたので、大変楽しい学会参加となりました。

マクデブルクは「マクデブルクの半球の実験」で有名です。これは、2つの銅製半球をぴったり合わせて内部の空気を抜くと、いくら引っ張っても離れないという実験で、この街出身の科学者オットー・フォン・ゲーリケが行ったものです。会期中には、実際にこの「マクデブルクの半球の実験」を参加者全員で行い、大いに盛り上がりました。

CellMAT2024

CellIMATの対象分野である Cellular Materialは、多数の穴を有する材料のことです。身近な例としては、パン、骨、竹などが挙げられます。これらは緻密材に比べて軽量でありながら高い剛性を持ち、吸音・吸熱・衝撃吸収性能に優れています。近年では、環境負荷を低減しつつ複数の機能を同時に発揮できる材料として、産業利用が進んでいます。

本会議では、菌類、多孔質セラミック、電磁波を吸収可能なエアロジェルなど、多岐にわたる多孔質材料が取り上げられ、私の研究テーマであるポーラス金属に関する発表も多く見られました。私は「Effect of Oxygen on Stability of Aluminum Alloy Foam fabricated through Semi-Solid Route」という題目でポスター発表を行い、多方面からの視点で議論することができました。学術的な知見だけでなく、今後の産業利用にも有用な指針を得られました。さらに、今回の発表は「作製した試料について精緻な分析を行い、当初の目的を達成した」と評価され、Best Poster Award 3rd Placeを受賞しました。ヨーロッパで開催される学会で賞をいただけたことは、大変光栄であり誇りに思います。



半谷 大



半球を引っ張る実験

ポーラス金属の産業利用

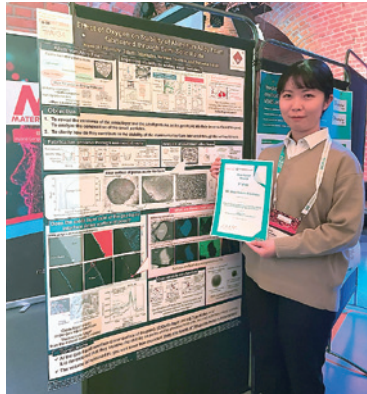
ポラス金属の産業利用は、現状では一部の工業製品に限られています。その主な理由は、性能の信頼性が十分でないことにあります。気孔形状や気孔率に加えて、気孔の配置を制御することができないため、得られる特性にばらつきが生じます。また、数値計算で導き出した最適構造を実際に再現できないことも課題です。

本会議では、作製法、特性評価、産業応用まで幅広い議論が行われました。特に、Additive Manufacturing (AM) によるポーラス金属の作製研究が目立ちました。AMは気孔配置を制御できる点で先述の課題を克服しつつあり、国外では工業化が進んでいることを実感しました。また、ポーラス金属の各種試験に関するドイツ工業規格 (DIN) に関する Dr. U. Jehring 他の講演も非常に興味深いものでした。ドイツが世界のポーラス金属産業の牽引役となることが予想されます。

本会議の参加を通じ、国内での産業化推進には、工業的信頼性の確立、規格整備、適切な応用分野の選定が重要であると再認識しました。特に、防音建材や熱制御部材などから利用拡大を図ることが有効であり、産学連携により広く利用される材料開発を行っていきたいと感じました。

最後に

今回、スズキ財団の海外研修助成のおかげで本会議に参加することができ、心より感謝申し上げます。ポスター賞を受賞できたのも、渡航費の心配をせず、費用のかかる分析機器を十分に活用して研究に専念できたからです。最後に、スズキ財団の今後のご発展を祈念するとともに、引き続き次世代研究者へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



高松先生と発表ポスター

総資産 164億2,837万円(2025年3月末)
設立年月 1980年 3月

助成件数累計※ 2,297件

助成金額累計※ 29億6,780万円 ※1980年度から2024年度の45年間の累計



公益財団法人 スズキ財団

事業報告

科学技術研究助成の1980年度から2024年度までの45年間の実績

■ 学校別の助成一覧表(計1,402件)

(数字は45年間の累積助成件数)

北海道	北海道大学	22	東京	東京工業高等専門学校	1	鳥取	鳥取大学	3	
	室蘭工業大学	6		神奈川	都立産業技術高等専門学校	4	島根	島根大学	1
	北見工業大学	3			横浜国立大学	16	岡山	岡山大学	21
	旭川医科大学	2	横浜市立大学		1	岡山県立大学	2		
	北翔大学 (旧浅井学園大学)	1	神奈川工科大学		3	岡山理科大学	2		
	千歳科学技術大学	1	関東学院大学		1	津山工業高等専門学校	1		
	旭川工業高等専門学校	2	湘南工科大学		1	広島	広島大学	24	
苫小牧工業高等専門学校	1	昭和大学医療短期大学	1		広島市立大学		4		
青森	弘前大学	3	東京工芸大学	2	広島工業大学		1		
	八戸工業高等専門学校	1	新潟	新潟大学	12	福山大学	1		
岩手	岩手大学	10		長岡技術科学大学	4	呉工業高等専門学校	1		
	宮城	東北大学		52	長岡工業高等専門学校	1	山口	山口大学	11
東北学院大学		2	富山	富山大学	11	山口東京理科大学		2	
東北福祉大学		2		富山県立大学	6	宇部工業高等専門学校		1	
一関工業高等専門学校	1	富山高専専門学校		1	大島商船高等専門学校	3			
秋田	仙台電波工業高等専門学校	1	石川	金沢大学	29	徳島	徳島大学	10	
	秋田大学	5		北陸先端科学技術大学院大学	6	阿南工業高等専門学校	1		
	秋田県立大学	5		公立小松大学	3	香川	香川大学	8	
山形	山形大学	7	石川工業高等専門学校	3	香川高等専門学校		2		
	福島	福島大学	3	福井	福井大学	12	愛媛	愛媛大学	4
医療創生大学 (いわき明星大学)		1	山梨		山梨大学	17		新居浜工業高等専門学校	1
茨城	茨城大学	27	長野	信州大学	6	弓削商船高等専門学校	1		
	筑波大学	16		長野工業高等専門学校	1	高知	高知工業高等専門学校	1	
	流通経済大学	1	岐阜	岐阜大学	17		福岡	九州大学	33
	宇都宮大学	7		岐阜工業高等専門学校	7	九州工業大学		6	
群馬	群馬大学	25	静岡	静岡大学	102	北九州市立大学		4	
	前橋市立工業短期大学	1		浜松医科大学	5	西日本工業大学	1		
埼玉	埼玉大学	14		静岡理工科大学	6	福岡大学	2		
	埼玉工業大学	4	沼津工業高等専門学校	1	福岡工業大学	3			
千葉	日本工業大学	7	愛知	名古屋大学	37	福岡国際医療福祉大学	1		
	千葉大学	16		名古屋工業大学	15	九州産業大学	1		
	千葉工業大学	5		豊橋技術科学大学	59	久留米工業大学	1		
	帝京平成大学	1		名古屋市立大学	1	久留米工業高等専門学校	1		
	木更津工業高等専門学校	3		大同大学	1	佐賀	佐賀大学	5	
東京	東京大学	54	中部大学	3	長崎		長崎大学	3	
	東京海洋大学	1	豊田工業大学	4		長崎総合科学大学	3		
	東京学芸大学	2	名城大学	5	佐世保工業高等専門学校	1			
	東京科学大学	42	豊田工業高等専門学校	5	熊本	熊本大学	9		
	東京都立大学	16	三重大学	13		大分	大分大学	9	
	電気通信大学	14	鈴鹿工業高等専門学校	4	大分県立看護科学大学	2			
	東京農工大学	24	滋賀	滋賀医科大学	1	日本文理大学	1		
	青山学院大学	2		滋賀県立大学	3	大分工業高等専門学校	1		
	慶應義塾大学	12	京都	京都大学	23	宮崎	宮崎大学	1	
	工学院大学	5		京都工芸繊維大学	7	鹿児島	鹿児島大学	6	
	国士舘大学	3		同志社大学	5	沖縄	琉球大学	4	
	駒澤大学	2		立命館大学	7		沖縄工業高等専門学校	2	
	芝浦工業大学	13	大阪	大阪大学	47	研究所	宇宙航空研究開発機構	3	
	順天堂大学	1		大阪公立大学	21		(財)応用科学研究所	1	
	上智大学	3		大阪工業大学	7	大阪産業技術研究所	3		
成蹊大学	2	大阪産業大学		2	岡崎国立共同研究機構	2			
中央大学	7	大阪体育大学		1	国立天文台	1			
東海大学	13	大阪電気通信大学		1	(独)産業技術総合研究所	18			
東京工科大学	5	関西大学		1	(独)物質・材料研究機構	1			
東京電機大学	7	近畿大学		6	(財)東京都老人総合研究所	1			
東京理科大学	25	甲南大学		1	西独軽機械センター	3			
東邦大学	1	大阪大学工業高等専門学校		1	浜松医療センター	1			
日本大学	4	大阪府立工業高等専門学校	1	兵庫県立工業技術センター	1				
日本医科大学	1	兵庫	神戸大学 (旧神戸商船大学分を含む)	24	防衛大学校	2			
法政大学	2		兵庫県立大学	5	理化学研究所	4			
東京都市大学 (旧武蔵工業大学)	12	奈良	奈良先端科学技術大学院大学	5	合計	1,402			
明治大学	1		奈良工業高等専門学校	3					
立教大学	1	和歌山	和歌山大学	1					
早稲田大学	21		和歌山工業高等専門学校	1					

合計 1,402



公益財団法人
スズキ財団

<https://www.suzukifound.jp/>



機械工業の発展を願って

スズキ財団は、日本の社会の発展に貢献してきた機械工業の飛躍のため、科学技術に関する研究に従事する全国の大学、大学院、高等専門学校及び、公的研究機関の研究者を支援しています。

設立 スズキ株式会社創立60周年を記念して、1980年3月に設立されました。

設立時理事長 鈴木 修、現理事長 鈴木 俊宏

活動実績 これまでの45年間で、全国の研究者の皆様や海外からの研究留学者に累計2,297件、総額29億6,780万円の研究助成を実施しました。

また、スズキ財団創立40周年を記念して創設した顕彰事業「やらまいか大賞」と「やらまいか特別賞」は、2025年2月に第5回授賞式を行いました。

総資産 164億2,837万円(2025年3月末)



公益財団法人
スズキ教育文化財団

<https://www.suzuki-ecfound.com>



青少年の健全育成を目指して

スズキ教育文化財団は、静岡県内の高校生や静岡県出身の大学生に対する返済不要の奨学金給付や特別支援学校で学ぶ子どもたちが使用する物品の寄贈、外国人学校で学ぶ児童・生徒への支援を行っています。

設立 スズキ株式会社創立80周年を記念して、2000年10月に設立されました。

設立時理事長 鈴木 修、現理事長 鈴木 俊宏

活動実績 これまでの25年間で、685名に、総額5億4,427万円の奨学金を、特別支援学校に総額1億6,349万円の物品をお届けすることができました。

総資産 69億2,528万円(2025年3月末)



公益財団法人
鈴木道雄記念財団

[https:// www.smmfound.suzuki](https://www.smmfound.suzuki)



社会福祉の向上・スポーツの普及振興に貢献します

鈴木道雄記念財団は、社会福祉法人への福祉車両等の寄贈、児童・青少年に対するスポーツの普及・振興事業への助成を行っています。

設立 スズキ株式会社代表取締役会長(当時)の鈴木修が自身の88歳の米寿と最高経営責任者40年の節目に、創業者・鈴木道雄の遺徳を偲びつつ、これまでご支援いただいた皆様にご恩返しがしたいと、自身が保有するスズキ株式会社株式25万株を寄託して2018年1月に設立されました。なお、2023年7月には35万株の追加寄付があり、鈴木修自身による寄付株数は60万株*となりました。

設立時理事長 鈴木 修、現理事長 鈴木俊宏

活動実績 これまで、静岡県並びに山梨県内の社会福祉法人108団体に福祉車両を寄贈したほか、スポーツ指導者の育成や児童・青少年がスポーツにかかわる機会の創出を行う団体に2,665万円の助成を行いました。

総資産 52億6,857万円(2025年9月末)

※2024年 株式分割後株数 240万株



静岡県西部にはこの地域の方言で、「とにかくやってみよう」「やろうじゃないか」という意味の「やらまいか」という言葉があります。

これは、遠州人の「あれこれ考え悩むより、まず行動しよう」という進取の精神を表すものと言われ、チャレンジ精神を大切にする風土を育んでいます。

これを合言葉に、自動車産業や楽器産業、オートバイ等々世界を代表する企業を輩出してきました。

やらまいか 2026 January Vol.29

発行日:2026年1月

<https://www.s-yaramaika.jp/>



発行/スズキ株式会社

編集責任者/角野 卓

スズキ株式会社 本社:〒432-8611 静岡県浜松市中央区高塚町300 ホームページ:<https://www.suzuki.co.jp/>

公益財団法人スズキ財団:〒105-0021 東京都港区東新橋二丁目2番8号 ホームページ:<https://www.suzukifound.jp/>

表紙題字/平形 精一(静岡大学名誉教授)